

**「日中植林・植樹国際連帯事業」2019年度中国高校生訪日団第1陣
参加者の感想（抜粋）**

Aコース 第1分団

○今回の日本訪問では大きな成果があった。

日本の防災は万全で、常に避難し命を守る備えをしている。スーパー等公共施設では地震等災害発生時の避難集合場所を示す標識があった。セミナーでも、日本の小中学校には常に避難物資が備えられ、適時置き換え補充されると知った。

また日本の高校生活も体験し、短くも楽しいひと時を過ごした。校内見学に連れて行ってくれたり一緒に授業を受けたり、皆とても親切で好感が持てた。部活動もすごく良かった。これも日本の学校の特色の一つだと思うが、面白くて実践的で、興味を伸ばすのに役立つ。私達の学校にもいろいろな部活動があるので、日本の部活動のいいところを学んで帰って活かせればと思う。

帰国したら防災で学んだことを皆に伝えたい。

○植樹活動に参加して、森林保護の大切さがわかった。被災跡を見学して、“災害のむごさと人の温かさ”を知った。JAXA 筑波宇宙センターでは日本の宇宙飛行技術が世界をリードしていると感じた。学校交流では言いたいことを言い合い、プレゼントを交換し、これぞ交流だと感じる事ができた。私はこの十日間ほどの交流でだんだんと日本を理解し、言葉や左側通行、小さな声で話すことにも慣れ、そして日本人の優しさに親しんだ。日本文化は日本人一人一人の心に深く根付き、“人に迷惑を掛けない”という特性は世界的にも評判だ。日本と中国は一衣帯水の隣国で文化も似ており、日本に来るとある種の親しみを感じる。帰ったら皆に日本で見聞きしたことを話して今の日本を紹介したい。未来は若者が創っていく。両国の若者が行き来し交流して友情の種をまいてはじめて、いろいろな面で協力し共に発展していけるのだ。

Aコース 第2分団

○①植樹活動では両国の友情の種を植えたのだ。あの木が根を張り芽を出し、枝葉を茂らせてほしい。

②学校交流では中国の学校の部活動に足りない面があるとつくづく感じた。日本の学校が部活動を重視していることは学ぶに値すると思う。部活動は伝統文化や技芸を守るのにも役立つ。

③日本は適齢児童への防災教育や大災害に備えた訓練等、防災に多大な努力を払っている。中国も普段から警戒を怠らず、しっかり学ばなければならない。

④日本は汚水処理専門の施設があり、技術研究がなされている。中国は日本の再生水処理を参考に、各処理場の間でエネルギーを有効利用するやり方を積極的に学べばいいと思う。

今回の行程を通して、日本の印象が更に良くなった。日本のいろいろなやり方を積極的に学んだ。

この貴重な成果を周囲の友達と共有し、皆で学べたらと思う。中国も日本も益々良くなって、友好の花がますますきれいに咲くように！

○今回の環境、防災に関する視察や交流活動で良かったことは、実際に地震の疑似体験をさせてもらったことと、防災減災のやり方を教えてもらったことだ。改善が必要だと思った点としては、植樹活動の時間をもっと長くし、双方の学生に本当に木を植えさせるべきだと思った。

防災面で中国と違うところは、防災士の定義だ。防災士は減災や社会の防災能力を高めるために積極的に活動すると共に、十分な防災意識、知識、技能を備えた人で、その基本理念は人々に防災教育をすることだ。これは手本にしなければと思う。帰国したら私も防災の知識や日本の防災意識、経験や対策について友達や先生や家族に話してあげようと思う。

学校交流では視野や見聞が広がった。至学館高校の環境問題に関する英語の授業では、日本の学生が皆入念に準備してきていて、私達に日本の環境保護対策を紹介してくれた。私達も中国の節水や新エネルギー開発、地球温暖化対策についてしっかりと紹介した。意見が一致するたびに皆うれしくて拍手をした。

Aコース 第3分団

○日本人は本当に“人に迷惑を掛けない”。国民の素養が高く、礼儀正しく善良で、喜んで人助けをする。皆防災意識や環境保護意識が高い。見習うに値する。

○日本の防災は、予防措置から対処、復旧と、各段階の細部に至るまで大変良くできている。

日本人は素養も環境保護意識も高く、規則を守り、草木を愛し、むやみにゴミを捨てたりしない。帰ったら必ず友達に日本のすばらしいところを話し、両国の友好が発展するようにしたい。

Aコース 第4分団

○日本での数日間の交流学习を通し、この国の良いところが見えた。たくさんある。日本は自然災害が多いので、政府も民間組織も国民も、多くの経験を積んでいる。その貴重な経験は私達が学ぶに十分値する。また AED の使い方も習った。中国では AED の普及率がそれほど高くないが、これも私達の課題だと思う。驚いたのは、日本では小さい子供でも防災訓練を受けて学んでいることだ。中国でもやっているが頻度は高くないし、普及率 100% 実現は難しい。これも私達の課題だ。

この数日間、日本の人達がとても親切にもてなしてくれた。訪問先の学校の学生達も大歓迎してくれた。連絡先も交換した。お互い連絡を取り合っていければと思う。また、日本の学生にもどんどん中国に来ていろいろ見てほしい。そして友好の橋を架けていこう。

最後に、日本の関係者、スタッフの皆さんに心から感謝したいと思う。ありがとう！

○中国の学校も日本の学校も防災教育をととても重視している。今回の訪日で、AED の使い方等新しい救急防災知識や、“災害緊急時は自分で自分を守る、一番大事な命”といった新しい理念をたくさん学んだ。また中国の学校の防災措置や緊急時の対処法について日本の学生と話し合う等、得るものがたくさんあった。

帰ったら家族や周囲の友達や先生と今回学んだ知識や成果を共有し、より多くの人に対処法を知って自分の命を守れるようにしたい。

東京と広島和学校では、日本の学生と一緒に体育、茶道、書道、調理、国語等面白くてためになる授業を受け、両国の文化や歴史の違いと共通点を共有し、青少年の友好交流を進めた。

Bコース 第1分団

○日本は自然災害が多い国だ。そして日本人の防災知識や防災対策の綿密さには驚かされる。日本の防災対策には思想面と物質面がある。思想面では小学生から防災教育があり、物質面では家屋の構造や建材など随所に工夫が見られ、防災を重要視しているのがわかる。そういう面で私達が日本人から学ぶことはたくさんある。中国がそこまで到達するにはまだまだやらなければならないことがたくさんある。しかし国情が違う。地震が多い地域と台風が多い地域の境界が結構はっきりしており、防災措置も防災教育も各地域に合わせたものにしないといけない。全体的に見て、台風で冠水被害が多発する東南沿岸地域でできることは、幼少期からもっと全面的な防災教育をすることだと思う。水の威力が大きすぎるから、建物の構造や建材に関してはまだ更なる有効措置が無いと思う。地震多発地域では、日本の防災対策の思想面と物質面の良いところに見習えばいい。防災意識が不十分なために死傷する人もいるから、個人が防災意識

を高めることが大切だということも今回よくわかった。今後は周りの人達にも役立つ防災の知識を伝えたい。中国は社会主義国だから、短時間で国中の力を集結して被災地を救助できるが、救援が到着するまでの間、自分で自分を守り、人と助け合うことこそ命を守る最良の方法なのだ。

○今回一番驚いたのは日本人の防災意識の高さだ。中国人はかなわない。だから中国人は、特に若い学生に対して防災教育を強化すべきだと思う。そうすれば災害が起きた時、死亡率を大幅に減らせる。同時に防災授業にある程度の実習を入れれば、防災技術のレベルアップに役立つ。この数日間で、前は知らなかったいろいろな知識を学んだ。例えば、地震の時自分の頭部を守る「ダンゴムシの姿勢」、「クラッシュ症候群」に関すること、判断方法や救助方法、新聞紙やビニール袋、段ボール板を使った骨折箇所の固定方法、サランラップを使った湿潤療法等だ。そのうち、トリアージは中国と違う。日本は黒、赤、黄、緑で分類するが、中国では軽傷、中度傷、重症、死亡と分け、色は日本とほぼ同じだが定義で言えば軽傷は日本の方が軽めだ。

環境保護も十分になされている。ゴミの分別収集はきちりしていて、リサイクル率も高い。中国も最近ゴミ分別を大々的にやっているが、早く進展するとういなると思う。学校交流が一番楽しかった。日本の学生の学習プレッシャーは中国の学生より軽めだ。部活が多く、総合的素養の育成を重視している。日本の学生はとても親切だ。言葉の交流では少し困ることもあるが、心は一つに繋がっている。この友情はずっと留まるだろう。今回の交流は私の将来にも大きな意義がある。今後また日本に来る機会があればいいなと思う。

Bコース 第2分団

○参考になった点：防災減災の体制と政治的対策が整っている。人々の防災減災意識を育てている。

中国と同じ点：環境保護と防災減災を重視している。

中国と異なる点：国情が違うので、防災減災のやり方がいささか違う。

帰国したら周囲の人達に救援や災害時の助け合い、災害に直面しても希望を失わないこと、自分で自分を守ること、環境保護等について伝えたい。

○日本は防災減災がとてもうまくされていて、今回はたくさん役立つことを吸収できた。将来困った時に実際使うことができる。

中国も日本も環境保護や防災に前向きに取り組み、国民の生命の安全を保障している。だが両国の文化は違うので、やり方は同じではない。だからこの交流を通して学び合い、共に進歩するのだ。

今回の交流は大変特別で充実したものだった。帰国したら周りの人達と両国の文化の違いや、交流で学んだ異なる防災の仕方について分かち合おうと思う。

Bコース 第3分団

○日本人の環境保護は万全だと言える。一つ一つの命に対して感謝の心で向き合っている。もちろん、生活上の必要から木を伐採しなければならないこともある。でも日本人はまた新たに木の苗を植える。なぜなら、ある命のために別の命が犠牲になる時、自分達有利な立場の者は感謝の心を持たなければならないと皆思っているからだ。この偉大な意識には驚かされる。この点は絶対に見習う必要がある。次は防災措置だ。例えば備蓄の魚の缶詰や、サラダ油のランプ、新聞紙のスリッパ、学生机後部の頭巾、それに便器等々…、どれもよく考えられている。世界中の人々から日本は災害の博物館だと言われるが、別に悪いことではない。災害を経験してたくさんものを生み出し、世界に貢献しているのだから。

○8日間の活動を通して日本人が環境保護や防災に精通し優れている点を間近で理解できた。名所旧跡の見学や食事等いろいろな面から日本文化を知ることができた。また交流を通して日本人の礼儀正しさを感じた。礼儀を重んじる、これは若い私が学ばなければならないことだ。帰国したら、日本人の防災意識、文化、礼儀、防災措置などについてもっと皆に伝えたいと思う。

Bコース 第4分団

○植樹活動の時、植樹用土壌の材料は参考にするといいなと思った。日本は島国で海洋資源を幅広くたくさん利用できるが、それを土壌の原料にまで用いるところは学ぶに値する。私達は植林環境保護という考え方についても更に進化させ、植樹活動をたくさんして、実践の機会を増やさなければならない。防災については、まず防災記念館や被災跡の保存だが、防災記念館が印象深かった。体験談を聞いて、感動すると同時に地震の怖さを思い、もし自分が違う場面で地震に遭ったらどう自分で自分を守るか想像した。また家に緊急時用の食料と水を備え、家具を固定する等、平穏時にも警戒を怠らないことを学んだ。中国に帰ったら、防災の重要性を周囲の人達に伝えると同時に、災害は避けられないが被害の程度は抑えられること、絶えず備えることで災害時に助けられる命が増えることをしっかり心に留めておきたい。最後に、今回の訪問活動に感謝したい。

○1、参考になるところ

①日本では日常的に防災の道具や備えが十分整っている。エレベーターの中にも災害時の食料と水が備えてある。

②日本人は一生懸命災害に立ち向かい、多くの人々が被災地に救援に行くなど自分にできることをしている。

③いろいろな職業の人達が皆とても勤勉だ。ドライバーさんは私たちのスーツケースを一列に並べた後、取りやすいように持ち手を伸ばしておいてくれた。

2、情報の伝達

①ゴミの分別方法が細かく決められていて、ゴミ収集車が収集しやすいように皆きちんとゴミを分別している。

②部活動が豊富で、ロッククライミングやスキー等、中国の学校とは違った部活がある。

③日本人は皆節約家で、資源を大切に少しも無駄遣いしない。